



桜と芝桜(提供：㈱エンポール)

## 牛久浄苑 牛久大仏

浄土真宗東本願寺派 本山 東本願寺  
事業本部事務局 統括局長

牛久事業運営管理会社

株式会社エンポール 代表取締役 前川 昌弘 氏

### ■企業概要

本 社：茨城県牛久市久野町2083

設 立：平成3年6月7日

従 業 員：65名

事業内容：牛久浄苑・牛久大仏の管理・運営事業

茨城県の観光名所として名高い牛久大仏は、浄土真宗東本願寺派本山東本願寺の牛久事業として、昭和58年に事業構想が立ち上がり、3年後から工事が着工、平成4年に完成し、翌年7月から一般公開が開始されました。

株式会社エンポールは、同事業の運営・管理を一括して行う会社として設立され、前川氏が代表取締役に就任しました。

牛久大仏は、青銅(ブロンズ)製立像で世界一の高さであるとして、平成7年にギネスブックへ登録され、さらに、県内の人気観光施設・観光地の頂点に輝いています。国内外の観光客から親しまれる牛久大仏の魅力についてお伺いしました。

(インタビュー日：平成29年7月5日)

【聞き手：筑波総研(株) 専務取締役 藤咲耕一】

御社の事業概要等についてお聞かせください。

### ■茨城県は親鸞聖人ゆかりの地

常陸国(現茨城県)は、鎌倉時代に「念仏こそ衆生救済の道」と信じて浄土真宗を開いた親鸞聖人(1173~1262年)が過ごした地です。

親鸞聖人は、約20年にわたり関東の布教拠点として現在の笠間市に住みながら、弟子と共に修行に励みつつ、浄土真宗の寺を建立していきました。県内に同宗の寺や事跡が多いのはこのためです。

親鸞聖人の著書「顕浄土真実教行証文類(教行信証)」はこの地で執筆され、同書が完成した1224年が立教開宗年といわれています。

聖人が笠間から京の都へ移動する際、当時水戸街道沿いの宿場町として栄えていた牛久宿に立ち寄ったことが推測されます。

このことから、約800年の時を超え、再び茨城・牛久の地に誕生したのが、悠久の仏都・牛久浄苑であり、そのシンボルが牛久大仏なのです。

### ■自然豊かな丘陵地に広がるやすらぎの園

牛久大仏は都心から約50km圏内に位置し、牛久市と阿見町にまたがる豊かな緑と水に恵まれたなだらかな丘陵地を利用した牛久浄苑とともに、約10年の歳月をかけて建設されました。

事業構想を立ち上げた当初、首都圏の墓地不足解消を目的に霊園事業を開始しましたが、現在は様々な形態の墓地が開発され、首都圏の需要は概ね満たされています。そのことから、当苑に眠る5割以上は茨城県の方々となっています。

また、牛久大仏の下に広がる浄土庭園内には、桜並木と芝桜の共演が美しい「郡生海」をはじめ、鎌倉時代の庭園を忠実に再現した「本願莊嚴の庭」、様々な種類の花が咲き誇る「定聚苑」、動物と触れ合うことで命の大切さを学べる「小動物公園」などがあります。

## ■ ギネス登録・世界一の牛久大仏

牛久大仏は、青銅（ブロンズ）製立像で世界一の高さであるとして、平成7年にギネスブックへ登録されました。



ギネスブックに登録された内容について説明する前川氏(右)

牛久大仏の高さは120m（像高100m、蓮台10m、台座10m）を誇ります。これは、浅草の東本願寺にある本尊・阿弥陀如来像（あみだにょらいぞう嘉永2年製造、東京都の重要文化財）が1.2mであること、阿弥陀様が放つ「十二光」の12という数字が由来です。

総重量は4,000 t、左手の掌は18mで奈良の大仏（像高14.98m）が乗ってしまうほどの大きさがあり、高さも自由の女神の約3倍もあります。

当園を訪れる方々は、皆一様にこの大きさに驚き、圧倒されています。私はこの大きさについて「阿弥陀様は、私たちにとって大きな存在であり、そして、その慈悲もとても大きい」ということを具現化していると感じています。



牛久大仏について説明する前川氏（左から2番目）

## ■ 地上85mの高さから関東平野を一望

牛久大仏は、エレベーターを利用することで胎内めぐりも可能です。地上85mに設置された4・5階の「りょうじせん霊鷲山の間」にある3つの展望窓からは、美しい関東平野を一望することができます。

3階は極楽浄土の別名「れんげそう蓮華蔵世界」で、壁一面に約3,400体の胎内仏が安置されています。2階は写経を行う「ちおんほうとく知恩報徳の世界」、1階は阿弥陀如来の大きな慈悲を表す美しい光の空間「かんそう光の世界・観想の間」が広がっています。

また、外に目を向けると、大仏の前に置かれている香炉は青銅製香炉として日本一の大きさです。このように、牛久大仏は見どころがいっぱいです。

## ■ 茨城県内有数の観光地としての特徴についてお聞かせください。

### ■ 交通利便性が向上し、観光客が増加

平成15年3月に圏央道つくば牛久ICが開通し、牛久大仏と市内観光名所の1つであるシャトーカミヤ（※）を合わせた観光入込客数は、開通前後の2年間で約15万人増加しました。これは牛久市の人口の約2倍に相当する数値です。

また、茨城県が発表した「平成28年度 海外からの本県周遊ツアーの催行状況について」によると、県内の主な立ち寄り回数（延べ）は、ひたちなか海浜公園346回、袋田の滝158回、偕楽園141回に次ぎ、牛久大仏は115回となりました。

さらに、平成29年2月に圏央道の茨城県内区間が全線開通し、成田空港から牛久大仏までの所要時間は車で約40分と縮まり、交通利便性は飛躍的に向上しました。

その上、本県の観光振興策の効果もあり、茨城空港を経由して牛久大仏を訪れるベトナム人観光客も増加しています。

2年後の東京オリンピック開催時には、本県を訪れる観光客はさらに増加すると考えられます。今後、社員とともに牛久大仏を訪れる方々がより一層楽しんでいただける仕組みを構築していきたいと考えています。

※シャトーカミヤの詳細は「筑波経済月報2015年1月号 企業探訪」に掲載しています。



牛久浄苑と牛久大仏 (提供：(株)エンポール)

### ■ 茨城県の人気観光地「第1位」に輝く

平成27年6月、世界最大の旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」が「インバウンド調査」を発表しました。その中で牛久大仏は、県内の人気観光施設・観光地の頂点に輝きました。

牛久大仏を訪れる年間の観光客数は、約48万人です。その内、外国人観光客は約3万6,000人となっています。

タイやベトナムなど東南アジアの仏教国から来た方は、敬虔の念を抱いて牛久大仏を拝み、中国や台湾などのアジア圏、フランスやアメリカなどの欧米圏から来た観光客は、自由の女神の3倍もある牛久大仏の巨大さを目の当たりにして、東洋の神秘を感じているようです。

### ■ 外国人観光客への様々な対応策

当園は外国人観光客に対応するため、英語版のパンフレットを作成しています。今後、言葉では伝わりにくい部分をイメージ図で分かりやすく表現する工夫なども行い、英語圏以外の観光客にも対応できる取り組みも進めて参ります。

また、現在、受付では簡単な英語対応ができる体制を整えています。今後、増加が予想される外国人観光客に対応するため、自主的に英会話教室に通う社員もおり、頼もしく感じています。

**多くの方から霊園そして観光地として親しまれる理由についてお聞かせください。**

### ■ 「仏の光を観る」 = 「観光」

「観光」とは、文字通り「光を観る」と書きます。江戸時代、全国各地に住む人々は「一生に一度だけでも伊勢神宮をお参りしたい」と願い、団体参拝に出かけました。これが団体観光の始まりといわれています。

また、落語や大道芸は、人々が通う寺において厳格な雰囲気の中でお経を聞いた後、気分を和ませるものとして登場しました。このように、寺院は昔から生活の拠り所として親しまれてきました。

しかし、現在は「寺院=敷居が高い場所」と思われがちです。そのイメージを払拭するために、寺の本堂を地域に開放してフラダンスやコンサートなどを開催している例も見受けられます。

### ■ 「いつ来てもきれいな庭園」を目指す

当園は仏教・浄土真宗の宗教施設ではありますが、宗教を問わない霊園として親しまれています。

私は「家族の宗教」というコンセプトのもと、盆や彼岸など限られた期間だけでなく、1年を通じて、お子様からお年寄りまで家族全員が安らぎを感じられ、さらに、娯楽性や観光性に富む豊かな場所を創造していきたいと考えています。

そのために最も力を入れているのは、園内の環境整備です。毎日職員1人ひとりが園内の生け垣や花の管理をはじめ、ゴミ1つ無い清潔感あふれる空間を保つよう心掛けています。

今後もお客様が「いつ来ても、綺麗で気持ちが良い」と感じていただけるよう努力して参ります。

## ■ 美しい季節の花々が人々の心を癒す

牛久大仏の足元には、約2万㎡の花畑が広がり、年間を通じて四季折々の花を楽しむことができます。この花畑は「建造物と自然との調和」そして「光・風・緑・命など自然の美しさや素晴らしさ」を感じられる場所として、多くの来訪者の方々に親しまれています。



春になると多くのプロ・アマ写真家が訪れ、牛久大仏と桜、芝桜の共演をカメラに収める（提供：㈱エンポール）

春は桜、芝桜、ポピー、かすみ草、ナデシコ、夏は紫陽花、ブルーサルビア、秋の10～11月にはコスモスなど、社員が手間暇をかけて育て美しく咲き誇る花は、観る人の心を癒してくれます。種類によっては花摘みすることも可能です。

また、現在では「大仏と桜と芝桜の共演」が有名になり、都内発のはとバスのツアー立ち寄り地としても組み込まれるようになりました。

## ■ 広告宣伝費をかけず、多くの人に発信

当社は、莫大な宣伝広告費をかけて観光客を呼び込むような取り組みは行っていません。

一方で各テレビ局に対し、お天気ニュースを放映する際の背景画面として、当園に咲く満開の花々の様子を利用させていただくなど、広告費をかけないパブリシティ戦略に取り組んでいます。

また、テレビなどをご覧になったお客様が後日来園し、園内で撮った写真をSNSなどで公開・拡散していただくことで、さらに多くのお客様に対して当園の魅力をアピールすることにつながっていると感じています。

## 地域貢献への想いについてお聞かせください。

### ■ 地域と連携しながら、茨城県をアピール

当社は茨城・牛久の地にご縁をいただき、地域の方々のご協力とご理解を得ながら、事業を展開させていただいております。

平成21年に開園した「あみプレミアム・アウトレット」との連携事業として、アウトレットで当園の拝観券を見せると、期間限定でノベルティグッズなどを応募できる仕組みを構築しています。

私は国内外から「茨城県に牛久大仏を観に行こう」と多くのお客様にご来訪いただくことが、地域貢献につながっていくと考えています。

これからも、県内の自治体や企業との連携を図りながら、自社事業の強みを活かして、茨城県の魅力をアピールし続けて参ります。



前川代表取締役（中央）、後藤財務部長（右から2番目）、鬼澤総務部長（右端）、ひたち野うしく支店 飯田支店長（左端）と聞き手・藤咲耕一

**この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただきまして、誠にありがとうございました。御社の今後益々のご発展をご祈念いたします。**

■ 文責・写真：筑波総研株式会社 研究員 富山かなえ